

「モデル小説」からみる
プライヴァシーの近代

日比 嘉高

第1回

イントロダクション

現代でもしばしばトラブルを起こす「モデル小説」。

なぜ、なにが理由となつて問題化したのかを考えるとき、

文学的試み、プライヴァシー意識、法などが

歴史とともに揺れ動いたようすが見えてくる――

1 この授業について

1・1 授業の概要

小説の登場人物のモデルとされた者が、何らかの形で抗議することによって起こる「モデル問題」。明治以来、さまざまな「モデル問題」が起こったが、それが〈問題〉となつた理由もまたさまざまだった。小説家がなにを書きたいのか、モデルは何に腹を立てたのか、どのような文芸思潮がその時代を支配し、どのような「常識」が人々を規定していたのか。複雑な要因が絡み合つて起こる「モデル問題」を時系列にそつて眺めていくと、文学と社会の関係――とりわけ小説表現と〈私的領域〉との衝突のありさま――は時代によって変化するということが如実にわかるだろう。

この講義では、現在における「モデル問題」のあり方を出発点とし、さかのぼりながら明治期におけるその初発期の様相を探る。トピックは三つである。表現の自由とモデルの保護に関する現代的感覚の登場があらわになつた柳美里『石に泳ぐ魚』とその裁判（一九九四）、日本のリアリズム文学の立役者の一人でありモデルとのトラブルの絶えなかつた作家でもある島崎藤村の軌跡（一九〇〇～一〇年代）、日本で初めてモデル問題により発売禁止処分を受けた内田魯庵の「破垣」（一九〇一）である。

1・2 授業の到達目標

- モデル小説というトピックを軸に、文学と社会の関係の変化を理解し、近現代文学の展開を学ぶ。
- 文学テキストの分析から、単に作品や作家の理解だけでなく、その時代の社会のようすがみえてくることを学ぶ。

1・3 進め方

基本的には教員による講義形式で行う。受講生には、小説テキストなど事前に指示した資料を読んでくることが求められる。また、それにもとづいた課題などを課すことがある。

1・4 単位認定

おおむね8割の出席を単位認定の必要条件とし、成績は課題・レポートの提出状況および達成度によって判定する。配点比率はとくに定めないが、期末レポートの完成度を重視する。

1・5 テキスト

〔必読〕 柳美里『石に泳ぐ魚』新潮文庫 / 他は配布する

〔発展〕 島崎藤村『新生』

2 日程

(省略)

【資料1】 『毎日新聞』一九九九年六月二三日

【資料2】 『破垣』のあらすじ

何某新男爵のもとに女中として仕えるお京は、男爵による性的な干渉に悩んでいる。彼女は訪れた母親にそれを相談するが、意外にも母親はお京を叱責する。自身かつて妾だった彼女は、男爵家の内幕を承知の上で、容色のよい娘を送り込んでいたのである。秋の日、男爵家の別邸では、男爵夫人発起の矯風倶楽部の秋季例会が行われていた。境を接した隣家の離屋^{はなれ}では会を抜け出した男爵と、彼の後ろ盾たる老伯爵らが女談義に花を咲かせ、お京の噂までもしている。一方、邸内の離屋^{はなれ}では、お京が奇しくも小学校時代の恩師に再会し、主人の仕打ちを訴えていた。矯風会の会員でもある若い小学校教師は男爵の偽善に憤るが、そこへ先の席を退出した男爵本人が聞きつけて乗り込んでくる。口論の末、男爵は教師に、矯風倶楽部から除名したうえ、教師も免職にしてやると言い放つ。その後、男爵はますます重用され、夫人は体調がすぐれず、お京と教師の消息は分からない、という後日談が付される。

【資料3】 「緩調急調」『新声』一九〇七年八月

「×藤村氏の「春」は故人透谷氏を中心にして文学界の同人諸氏をかくのだ相だ、並木は云はゞ其一説とも見るべきものだ。

×藤村氏の従来の作物は殆んど事実を骨子にしたものだ、或人は、この故に、藤村は空想が乏しい、作家としての技倆は疑はざるを得ないと云つてゐる相だ。

×花袋氏の『八年前』中の竹井と云ふ男は花袋氏の友人の事を書いたのださうだ。一部の人士間には、かう友人の事を書くのはいゝ事だらうかどうかと云ふ事が問題に成つて居る、但しこの問題の意味が、文芸上の事か道徳上の事かは聞きもらなかった。」

★ 小説表現と〈私的領域〉の衝突を考えるために――

● 〈私的領域〉とは何か？

● たとえば電話番号、国勢調査、Google Street View ……

● 公／私の相互規定、テクノロジー、法、文芸思潮……

【資料4】 ハンナ・アーレントは『人間の条件』（筑摩書房、一九九四年一〇月、原著初版一九五八年）

「第一にそれは、公に現われるものはずべて、万人によつて見られ、聞かれ、可能な限り最も広く公示されるということを意味する。私たちにとっては、現われがリアリティを形成する。〔…〕見られ、聞かれるものから生まれるリアリティにくらべると、内奥の生活の最も大きな力、たとえば、魂の情熱、精神の思想、感覚の喜びのようなものでさえ、それらが、いわば公的な現われに適合するように一つの形に転形され、非私人化^{プライベート化}され、非個人化^{デインディビデュアライズ}されない限りは、不確かで、影のような類の存在にすぎない。このような転形のうちで最も一般的なものは、個人的経験を物語として語る際に起こる。」(p.75)

2・0・1 モデル小説は何を引き起こすか

- 小説家を支持するか？ 描かれたモデルを支持するか？

↓二〇〇〇年代半ばの大学生たちは、ほぼ九割が読者側に立つ。

- だが、近代文学の歴史を多少なりとも知るものならば、この傾向が新しい傾向であることをすぐに認めるだろう。

- たとえば、長篇小説「新生」によって自身と姪との性的関係を告白し、新聞連載の形でそれを発表した島崎藤村の例

- どちらに利があるのかを判定する判断には、歴史的な変遷がある。

- さらに言えば、小説の表現そのものにも歴史がある。「新生」と「宴のあと」はともに近代小説であるが、発表時期には五〇年近くの開きがあり、その表現の質、とりまく文学の場、社会的状況、いずれも大きく変化している。

- 本書が目指そうとしているのは、この変化の記述である。モデル小説は小説の表現と人々の〈私的領域〉との衝突を引き起こす。そのトラブルを史的にたどることによって、我々は小説の近代と、〈私的領域〉の近代の双方を再考する視座を獲得できるだろう。

2・0・2 〈私的領域〉とは何か

- ひとまず文字どおりに〈私〉に属するものと人々が考える範囲〉を指す言葉として用いる。

- 「私」に属するものとは何か。これを定義するのは困難である。〈私〉に属するものと人々が考える範囲〉が、歴史的な状況の中で揺れ動いてきているからである。これは「私」に属するものが、それ自体で規定されるのではなく、「公」に属するものとの関係の中で規定され、またその時代時代の社会的な諸装置——メディアやテクノロジー、法など——の関係のもとで再定義、再認識され続けてきたものであり、また今もなお続けられているからである。「プライバシー」なる言葉が登場したこと自体も、この公的な領域と私的な領域の線引きに大きな変更を迫った出来事だった。

- たとえば電話番号、国勢調査、[Google Street View](#)……

- ハンナ・アーレントは『人間の条件』（筑摩書房、一九九四年一〇月、原著初版一九五八年）において、アテネの古代世界をモデル化しながら、人びとが複数性を保持しながら互いが互いを見聞きしあう〈公的領域〉（≡政治的領域）と、その状態から奪われた状態にあり欲求と必要とが支配する〈私的領域〉（≡家庭的領域）とを規定した。そして近代を、勃興する〈社会〉が〈公的領域〉と〈私的領域〉の双方を侵食していくプロセスとして把握した。

- アーレントの図式は、長大なスペインの歴史的变化をモデル化し理論化して説明する。私の考える彼女の図式の利点は、なぜ現代において、〈私的領域〉に属するはずのことがら（公的）であるはずの領域において関心事となるのかを説明できる点にある。政治的なものの価値が下落して社会の中にとけ込み、家庭的なものが全面化して社会に浸透するという状況は、たとえば政治家の非政治的側面——性や金など——におけるスキャンダルが、近代以降においては全社会的な関心事になりうるこの理由を解き明かすのである。